

2021年「市長1期4年・鴨川リセット」における実績

- ① 多目的施設建設中止と生活インフラ整備
- ② 事業仕分け「職員の積極関与により実施」
- ③ 継続的な事業見直し「庁内仕分け」導入
- ④ 城西国際大学観光学部移転時の土地交渉
- ⑤ 鴨川国保病院新築
- ⑥ みんなみの里の無印良品との提携
- ⑦ ゴミ中継施設クリーンステーション鴨川の設置
- ⑧ 100人会議による小湊さとうみ学校設置
- ⑨ メガソーラ発電施設への対応
- ⑩ 台風災害、新型コロナ対応 他

次世代に託すために、亀田いくおと共に「鴨川みらい宣言」



今、日本における大きな課題は少子化であり、人口減少は続いています。

地方においては後継者不足により産業の維持継続を断念せざるを得ない状況が発生しています。

そのような中、鴨川市は亀田総合病院、鴨川シ

ーワールドを始めとする企業、城西国際大学観光学部（当時）や移住者の方々等を含め最悪の評価は避けられておりましたが未来に向け対策は必須です。

私は鴨川に生を受け70余年となり、半世紀近く鴨川の地すべり協会、中山間・川代棚田クラブ等、第一次産業を担う立場として国土保全のため地元地域の人々と、地域振興の活動をしてまいりました。

そして今思うことは、先ずは、今鴨川にいる若い世代がどのようなものを欲しているか、この考えを叶えることが重要であると同時に、自分自身が満足しないと外部には魅力が発信できないと思ひ、様々な活動を行っております。

また、鴨川の持つ資源の活用、そして未来に向け今までの考えから脱皮する必要があることを実感しております。そして、鴨川の未来を考えると、房総全体が強くなることなくしては成り立ち

ません。国においても地方創生が見直されつつあり、強い自治体なくして日本国は成り立たないものと思っております。

また、鴨川の柱となり、この街を支え、鴨川の未来を開き、市民と一緒に、この厳しい社会という海を渡っていくという決意をした亀田いくおは、再び立ち上がりました。鴨川市議会議員・千葉県議会議員・鴨川市長として活動し、その経験から実績も挙げております。国、県、近隣の首長との強いパイプもあります。

「鴨川みらい宣言」の公約を実行に移すことにより鴨川市の未来が次世代に開けることを確信し「房総を強くする会」は「鴨川みらい宣言」を支援すると共に公約の達成を皆様と注視しつつ、強い鴨川市を目指して参ります。

尚、「房総を強くする会」は亀田いくおを支援すると共に皆様のご意見を頂きながら、連携のもと強い房総を目指してまいります。

ご賛同いただき会員を募集させて頂いております。

房総を強くする会代表 庄司祐輔



房総を強くする会

〒296-0041 千葉県鴨川市東町665

TEL : 04-7099-0190

FAX : 04-7099-0191

<https://kamogawa-mirai.com>

Mail : kameda1903@gmail.com



実績×実現力



鴨川みらい宣言

亀田いくお

討議資料

<https://kamogawa-mirai.com>

房総を強くする会

② なぜ「鴨川みらい宣言」に至ったのでしょうか？



私は、1981年（昭和56年）東京から鴨川市にUターンし亀田総合病院に勤務しました。その後独立し、起業し様々な事業を起してまいりましたが、その過程において行政の許認可等においては民間と行政の感覚的相違が「壁」となり

、民間側としては活力を失ってしまうことがしばしばございました。

この「壁」を乗り越えるには、行政に入り込むことが必要であると考え、2003年（平成15年）市議会議員に立候補し当選させていただきました。

ところが、市行政においては、県からの影響力が強く思うように事が運ばない、という新たな壁に直面しました。

2006年（平成18年）、齋藤美信当時県議が引退され、後継として千葉県議会議員に立候補、当選させていただきました。

県議会議員となり、県行政内を自由に横断し各方面から情報収集、または情報発信することで県と市のパイプ役を担い、時に「浜田靖一代議士」のお力添えにより、県を超えて直接国における主幹担当者と直接会話し、何が真に必要なかを説明し、難関を乗り越えたことも幾度かございました。

そのような中、最終的には「市行政」が国・県と民間との壁が取り除かれた時、市が実行に移すことを見届け、前進させることが使命であると強く認識し、2016年（平成28年）鴨川市市長選挙に立候補いたしました。

また、市長を選挙で選出することの重要性を市民の皆様は今一度ご理解いただきたいという思いは何より強いものであります。

初登庁から間もないある日の庁内会議で、「市民の生命と財産を守ることが市行政の使命」と発言がございました。

そのように真剣に市行政に向き合う職員の意志に感心するとともに、公約として掲げた行財政改革を成し遂げることの重要性を、改めて決意すると共に鴨川市を経営する視点で、財政健全化を最

重要事項とし「強い鴨川づくり」を目指し、市民参加による事業仕分けをはじめ、職員組合の理解のもと職員給与カットも行いながら、市行政一丸となって突き進んでまいりました。

財政改革は生き物です、現在においても鴨川市においては最重要課題です。

市長としての任期中「国保病院」「中継施設」「小湊さとうみ学校」他施策実現に際し不本意な情報が蔓延し、その影響で市議会との調和を維持することが困難な状況となり、議会運営が空転する状況に至りました。

この状況に終止符を打つには、自分自身が退くほかないと判断し、次世代に託すべく職を退きましたが、約16年間の地方政治経験の中、国・県の関係者、他方に及ぶ企業・団体の方々とお付き合いさせていただき現在に至っております。

鴨川市では、これまで話し合いによって市長を決定する風潮がありました。しかし、私は、市長という重責を一部の思惑に委ねるのではなく、候補者が具体的な公約を示し、その内容を基に市民が選挙を行うべきだと考えます。市民に選ばれた市長は、その公約を実現する責任を果たすとともに、その進捗や結果を市民に報告し、透明性を確保する必要があります。このプロセスを通じて、市民がその是非を判断できる仕組みを整えることで、市民と市長が一体となり、より強い鴨川市を築けると信じています。

最大の課題である人口減少と少子高齢化の解決と鴨川の魅力を再認識し「市民の生命と財産を守る」ことを使命とし、安心・安全に過ごせる街、そして、次世代が希望ある未来を創造することができる基盤づくりが私の使命とっております。

地方創生の波に乗り遅れないよう、鴨川市における根幹ともいえる第1次産業を守り発展させることを中心に考え強固な行財政基盤を構築してまいります。

2024年12月1日 亀田郁夫
実績 × 実現力



鴨川みらい宣言

1 経済再生の実現

人口減少社会に挑戦

- 多世代移住で活性化
- 働く人不足の解消
- 空き家、空き施設の活用

農業・漁業の振興に挑戦 現場に沿った法律の認識共有

- 農業・漁業の生産性を上げるための基盤整備と収益性確保
- 農地の有効活用
- 新たな特産品開発「ジビエ活用含む」
- 経年劣化による漁港の整備・機能の強化と魅力の拠点化
- 海業の理解と追及による漁業における収益確保
- 六次産業化の推進
- 地産地消の仕組み強化
- 鴨川ブランドの全国展開、世界展開

新しい時代の商業・観光に挑戦

- ふるさと納税による商品開発と営業により財源確保
- 鴨川プロモーションの強化
- 魅力の映像発信とフィルムコミッション
- 海辺エリアの再構築
- 観光の広域連携強化
- 中山間地域が持つ魅力を再発掘・活用

地域資源の再発見と利活用に挑戦

- 地域資源を再発掘と徹底活用
- 再生可能エネルギーへの対応
- 森林資源の活用
- 海辺に広がる松林のシンボリック活用

インフラ整備に挑戦

- 地域高規格道路の推進
- 遅れている南房総の道路網整備、拡充
- ネット環境への対応
- リモートワークや起業の促進

2 守る命・生活、つなぐ未来

医療・健康・介護・福祉を守る

- 健康長寿日本一の鴨川
- 予防医療とプライマリケアの推進
- 地域包括ケアシステムの進化
- 生涯現役のまちづくり
- 孤立や孤独ゼロの仕組みづくり

教育・子育て環境を守る

- 子ども目線の学校再編
- 子育てと仕事が両立できる支援体制構築
- 結婚、出産、子育てのトータル支援
- 多様な子どもたちの居場所充実

歴史・スポーツ・文化・芸術を守る

- 歴史的資源の保全と魅力発信
- 市民の活動による地域文化の承継
- すべての世代がスポーツ環境整備

防犯・防災で安心と安全を守る

- 地域全体で命を守る防災の仕組み構築
- 地域全体で取り組む防犯体制強化

生活環境を守る

- 持続可能なごみ処理の推進
- し尿処理施設など生活環境施設の整備

3 市民のために変わる市役所

市役所の意識改革の徹底

- 職員の意識改革と組織文化の見直し

国と市民直結の課題解決システム構築

- 鴨川の地域課題を鴨川市民と国・県が直結して問題解決につなげるシステム構築

財政危機からの脱却

- 行政プロセスの無駄撲滅
- 徹底した現状把握と分析の実施
- 市議会議員との情報共有・一体型市政運営